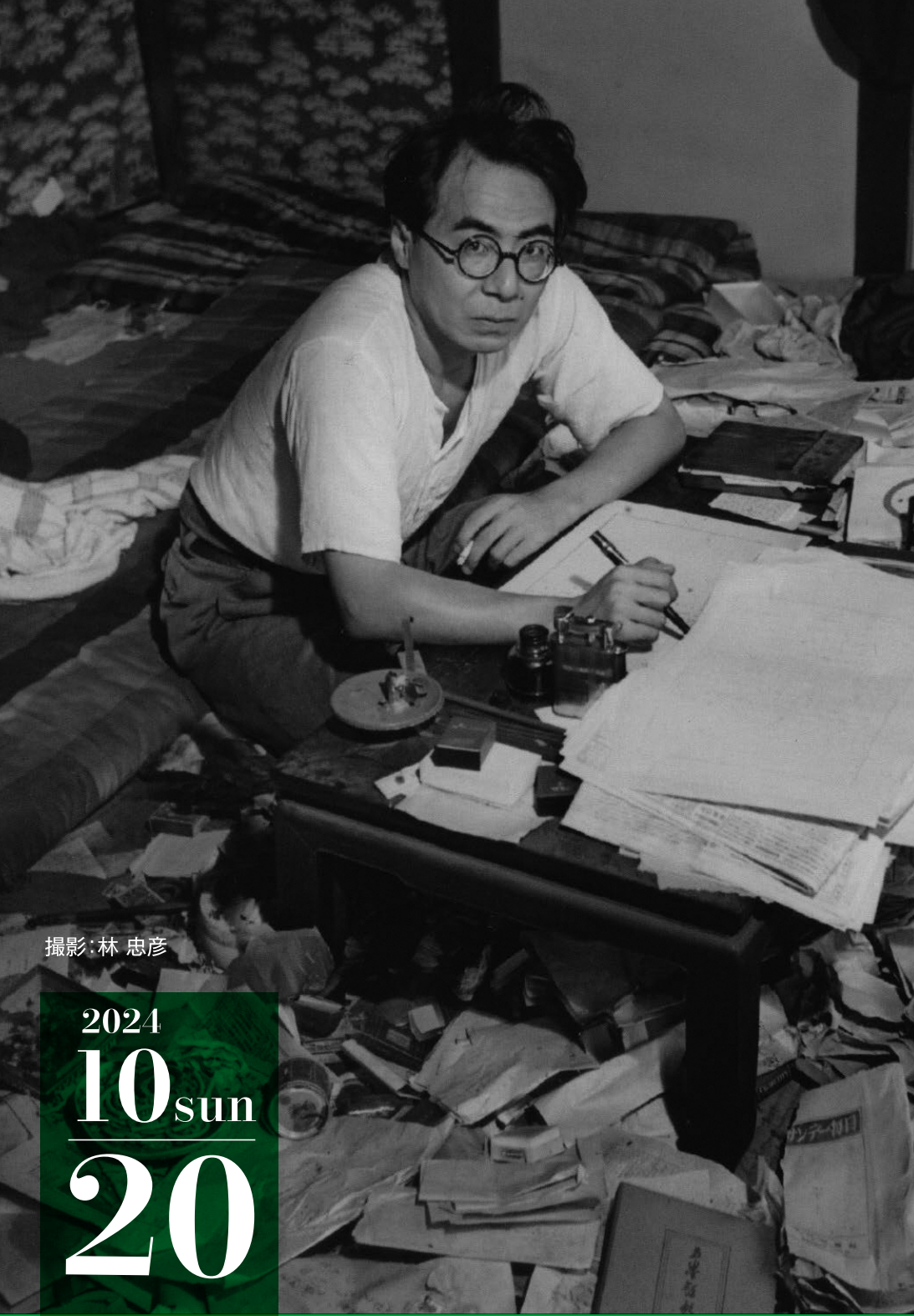


坂口安吾生誕祭 1118

浪曲師・玉川奈々福。拔群の口跡と、現代と過去を結ぶセンスで、当代随一の語り手として活躍する彼女が、作家・坂口安吾の代表作「桜の森の満開の下」浪曲化に挑む。これまでも卓越した企画力で浪曲界に新風を吹き込む公演を数多く開催し、古典に留まらず新作浪曲の筆にも冴えを見せてきた玉川奈々福。彼女が語る「桜の森の満開の下」、私たちの眼前に、新しい「虚空」が現出するだろう。乞うご期待!!



撮影:林 忠彦

2024
10sun
20

〈玉川奈々福 新作浪曲「桜の森の満開の下」口演〉

口演:玉川奈々福 曲師:広沢美舟

内容:レパートリーと新作「桜の森の満開の下」の2席
日時:2024年10月20日(日)14:00~16:00(開場13:00)
当日は混雑が予想されますので、お早めにお越しください

会場:新潟市民プラザ ホール(新潟市中央区西堀通6番町866番地 NEXT21ビル6F)

特別価格:2,000円(当日引換券・前売券共に同額、全席自由席)

定員:500人(先着順・申込方法により上限が異なります) ※申込方法など詳細は裏面をご覧ください



玉川奈々福

主催:坂口安吾生誕祭実行委員会(安吾の会、松之山安吾の会、桐生安吾を語る会、阿賀浦コミュニティ協議会、東洋大OB会、にいがた文化の記憶館、BSN新潟放送、新潟日报社、新潟市、新潟市芸術文化振興財団)

後援:新潟県

問い合わせ:坂口安吾生誕祭実行委員会事務局(新潟市文化政策課内) tel.025-226-2624

※事前の予告なしにイベント内容が変更となる場合があります。

玉川奈々福 新作浪曲「桜の森の満開の下」口演

【申込方法】以下からどちらかをお選びください

①当日会場でチケットと現金引換する場合(上限150名)

新潟市役所コールセンター(025-243-4894)へ電話で申し込む
受付期間:9月20日(金)~10月15日(火)※各日8:00~21:00
参加を希望する全員の氏名、代表者の電話番号をお知らせください

②前売券を購入する場合(上限350名)

新潟・市民映画館 シネ・ウインド受付にて購入
販売期間:10月19日(土)まで
住所:新潟市中央区八千代2-1-1 電話:025-243-5530
※販売したチケットは再発行できませんので、大切に保管してください。

1906-2024
坂口安吾
ANGO SAKAGUCHI
生誕祭
118

【駐車券処理について】

東堀駐車場パーク600、アルモにしほり、アルモひがしほりのいずれかを1時間以上のご利用で30分割引券を発行致します
※西堀地下駐車場、タイムズNEXT21、アルモ西堀前6、アルモ西堀5は提携しておりませんので処理ができません。ご注意ください。



口演:

玉川奈々福

(たまがわ・ななふく)

横浜市出身。1995年二代目玉川福太郎に曲師として入門。2001年より浪曲師としても活動。2006年奈々福で名披露目。さまざまな浪曲イベントをプロデュースする他、自作の新作や長編浪曲も手掛け、他ジャンルとの交流も多岐にわたって行う。平成30年度文化庁文化交流使として、中欧、アジア七か国で公演。第11回伊丹十三賞受賞。著書に『浪花節で生きてみる!』編著書に『語り芸パースペクティブ』がある。

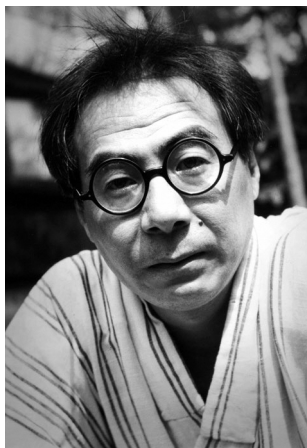


曲師:

広沢美舟

(ひろさわ・みふね)

千葉県佐倉市出身。義太夫から三味線に興味を持ち、偶然入った木馬亭にて師の音締の虜となり、通ううち浪花節のおもしろさに魅せられる。2015年5月に日本浪曲協会主催の三味線教室に通い、翌月沢村豊子に入門。浪曲師を腹で支え、描きたい世界とともに描ける、活かす曲師になるべく奮闘努力中。2022年10月、沢村美舟から広沢美舟に改名。



原作:

坂口安吾

(さかぐち・あんご)

生誕1906年~死没1955年

1906(明治39)年10月20日、新潟市西大畑町で父仁一郎、母アサの五男として生まれる。旧制新潟中学を退学し東京・私立豊山中学に編入学。卒業後、小学校の代用教員を経て東洋大学印度哲学倫理学科卒。

46(昭和21)年、『新潮』に「半年のうちに世相は変わった」と『墮落論』を発表、焼け跡の廃墟に佇む人々に衝撃を与え、一躍脚光を浴びる。無頼派と呼ばれる太宰治、織田作之助らとともに時代の旗手として小説、評論、エッセイなど旺盛な創作活動を続ける。

日本の伝統主義や権威の欺瞞性を批判する鋭い文明批評を展開し、戦後の文学や思想、文化に大きな影響を与えた。薬物中毒による入院や、税金不払い闘争、競輪不正事件の告発など社会的な事件も巻き起こし、注目を浴びた。47年梶三千代と結婚。53年長男綱男誕生。55(同30)年2月17日、群馬県桐生市の自宅で脳出血のため48歳で死去。

主な作品に『日本文化私観』『白痴』『風と光と二十の私と』『桜の森の満開の下』『青鬼の禪を洗う女』『不連続殺人事件』『夜長姫と耳男』『安吾巷談』。日本の古代史や文化・民俗・生活などを各地に取材した『安吾新日本地理』『安吾新日本風土記』ほか。

坂口安吾ゆかりの品の展示 「安吾って!」**入場無料**

日時/前期:9月5日(木)~11月5日(火) 後期:11月7日(木)~2025年1月9日(木)
※ほんぽーとの開館日に準じる。前期と後期で展示替えあり

会場/ほんぽーと新潟市立中央図書館 2階特別コレクション室(新潟市中央区明石2丁目1番10号)

◆ 阿賀浦コミュニティ協議会主催のイベントも注目! ◆

安吾WORLD2024 坂口安吾生誕祭 生誕記念講演会

郷土が生んだ文豪「坂口安吾」を身近に感じる!坂口安吾の長男、綱男氏が安吾の世界を語ります。

日時/10月27日(日)13:30~16:00

会場/新潟薬科大学新潟駅東キャンパス 大講義室(新潟市秋葉区新津本町1-2-37)

演題/「安吾のルーツ」 定員/160人(入場は無料)

参加申し込み/締切:10月13日まで【必着】

Eメール、Fax、ハガキのいずれかで ①氏名 ②郵便番号 ③住所

④電話番号を明記し、阿賀浦コミュニティ協議会まで申し込む。

宛先

〒956-0816 新潟市秋葉区新津東町2-5-6 新津地域学園内

阿賀浦コミュニティ協議会事務局 FAX. 0250-25-7655

Eメール agauracomikyo@coral.plala.or.jp

主催/阿賀浦コミュニティ協議会 共催/坂口安吾生誕祭実行委員会



坂口綱男(さかぐち・つなお)

写真家

1953年群馬県桐生市で坂口安吾の長男として生まれる。1978年からフリーのカメラマンとして広告写真や雑誌の写真を撮る。主な著書に『安吾のいる風景』、写真集『Le temps arrete』『安吾と三千代と四十の豚尻と』ほか。